

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立高槻支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	学校教育自己診断アンケートの満足度の向上 学校生活における児童生徒・保護者の満足度の向上（運動や肥満についてのアンケート） 卒業後の就労率の向上
計画名	～TOPP～高槻からオリンピック選手を～ 高槻オリンピック・パラリンピックプロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	卒業後の支援のある自立生活をめざしたキャリア教育の推進 ①小学部の段階から、障がいの特性や発達段階に応じてキャリア教育の推進を図る。 ②基礎的な体力の向上と豊かな心を育むための児童生徒の活動内容を追及する。 ア運動や遊びを通じて基礎的な技能を獲得し体力を向上させる。 イ肥満予防の観点から食育を推進する。
事業目標	①まず本校の立地条件として、鉄道に挟まれた住宅街に立地していることから、気軽に校外に出かけることが難しい。さらには、一昨年には創立50周年を迎え、校内環境も既存の遊具や用具も老朽化している。この中で、子どもたちの運動の量的・質的な不足を通常の授業だけでカバーすることにはかなりの困難さを感じている。 ②知的障がい者の体力レベルは、健常者と比較して40～60%レベル、青年期の知的障がい者の体力レベルは健常者の60%レベルとされている。（個々の能力には差があるが）また、若年時からの低体力が、青年期からの作業成績と加齢の影響について関連していることも示唆されている。さらには、「身体能力と体力」と「職業能力」との関係があるとされている。 ③知的や発達面に遅れのある子どもは、うまく身体を使いこなせないことで、友達との関わり方や、人との距離感をうまく保てない子どもがたくさんいる。キャリア教育が問われる昨今において、こうした子どもたちの「人とのかわり方」や「運動の仕方」、「からだの操作の仕方」、「さまざまな運動体験による成長・発達」に視点を置いて本事業に取り組みたいと考えている。 ④本事業を立ち上げることで子どもたちが主体的に安心して気軽に活動できる環境を整え、計画的な教育活動を進めていくことで、運動不足を解消する取組みを通して「からだづくり」を図り、「肥満防止」「生きる力」のベースとなる心身を育み、子どもたちの生涯のキャリア発達を支える基盤ができるようにしたいと考えている。 ⑤幼少期からの「からだづくり」についての必要性を我々教員がもう一度考え、子どもたちが自己肯定感を持ち自己実現できるように計画を進めていきたいと考えている。

整備した 設備・物品	大型遊具（肋木、梯子、クライミングウォール、ロープ、踊り場など）
取組みの 主担・実施者	主担者：体育科教員 実施者：全校教職員
本年度の 取組内容	<p>4月～2月：児童生徒が体育、選択科目、自立活動（休み時間含む）において大型遊具を使用した。体育では、大型遊具と運動用具とを組み合わせることで、サーキットのコースとして活用した。その結果、児童生徒の運動のバリエーションを広げることが可能となった。自立活動（休み時間含む）では、「健康の保持」「人間関係の形成」をねらいとし、児童生徒が自ら遊び方を考えて遊具を利用した。</p> <p>12月・1月：地域の保育所と連携し、学校の開放を行い、大型遊具を活用した。雨天で実施できない日もあったが、計70名ほどの児童が大型遊具を利用した。子ども・保護者と教員に向けてのアンケートを実施し、大型遊具の活用状況及び運動の成果について検証を行った。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ①独自のアンケート（肥満や運動について）を作成し、実施する。（子ども・保護者向けに実施） ②地域の幼保に対して、学校の開放を行い、大型遊具を利用した地域交流を行う。 ③学校教育自己診断による評価満足度の向上（85%） ④卒業後の進路としての就労率の向上
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> ①昨年度、子ども・保護者向けのアンケートは235名の回収があったが、今年度はアンケート配布の翌日に新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業となったため147名の回収にとどまった。昨年は初日で137名の回収であったことから保護者の子どもに対する運動への関心が高いことが伺える。アンケートの質問については、昨年度と今年度を比較するために同じ質問内容で行った。また、自由記述欄を設け保護者の意見、感想等を記入できるようにした。以下、主なアンケート結果を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ア「お子様にとって運動は大切だと思う」100%（前年比+1%） イ「お子様にはもっと運動してもらいたいと思う」89%（+5%） ウ「新しい遊具はお子様に興味を持って活動できる設備だと思う」94%（+13%） エ「新しい遊具はお子様の運動能力向上に向いている」82%（+7%） 以上より、昨年に比べ保護者の運動に対するニーズが高まっている。また、設置してからの3年で保護者の遊具に対する認識も高まっている。さらに自由記述欄の中には「完成する前から期待していた」や「近くにこのような遊具がないので有難い」「家でも工夫をしているが、学校の遊具でからだを動かしてもらえるのは助かる」などの意見があり、遊具を設置したことによる効果を保護者も感じている。……………（◎） ②今年度は地域に根差した支援学校として、地域の幼稚園・保育所に対して本校の開放を行った。地域には、本校に設置した大型遊具のような設備はなく、日々、幼児の遊び場を探している状況があり、利用した幼児や保育士からは「次回も是非使いたい」との声があった。学校に幼児たちの遊び楽しむ声が響き渡り、地域への学校開放の意義を感じる事ができた。……………（○）

	<p>③学校教育自己診断の集計結果において、「子どもが楽しく運動するための環境整備ができている」の項目の保護者の集計結果は 87%で前年度に比べ微減であった。（前年度 89%）しかし、評価指標である 85%は達成しており、本校が運動するための環境整備に注力していることについて保護者より理解を得られている。……………（○）</p> <p>④今年度生徒 35 名のうち 5 名が就労し、就労率は 14.3%となり、前年度より就労率は向上した。（前年度は生徒 40 名のうち 3 名で就労率 7.5%）……………（○）</p>
<p>事業のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型遊具を設置したことで、児童生徒の運動や活動の幅が広がり、主体的にからだを動かすことができるようになった。 ・校内での活用では、大型遊具での活動を取り入れた学部間交流が実施できた。学部間交流は、本校のキャリア教育の主軸となる取組みで今後も引き続き活用していきたい。 ・地域に学校開放をすることで、本校への関心を高めることができた。今後も地域に開かれ、受け入れられる学校となるよう、大型遊具の開放を進めていき、さらに地域の幼児と本校の児童生徒との交流活動の企画・推進をしていく。